

Presented by 医系専門予備校メディカルラボ

最新！！ 医学部入試情報 応用力養成編



彼を知り己を知れば百戦殆からず

医学部医学科合格のための3ステップ

基礎力

用語理解・定着
解法理解・定着

応用力
思考力
判断力
表現力

実践力
受験校対策
過去問演習

応用力が必要となる医学部入試

2022年度
京都府立医科大学
英語

英語(前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★★★ 難

前年との難易度比較 ↑ 難化

時間に対する分量 非常に多い

大問	分野	長文の種類 単語数	内容	出題形式	難易度
1	読解	社会系 約1,200語	「中流階級の学童による言語能力の発達」に関する評論文(選択問題、本文抜出、内容説明(日本語による記述))	選択・記述	★★★★★
2	読解	伝記系 約1,000語	「マハトマ・ガンディーの信念とインド独立」を扱った説明文(内容説明(英語による記述))	記述	★★★★★
3	読解	社会系 約1,250語	「中年でフランス語を学習することの難しさ」についての説明文(内容一致問題)	選択	★★☆☆☆
4	英作文	—	「コロナ禍での公共図書館によるオンラインサービスについての是非」をまとめる自由英作文(約200字)	記述	★★☆☆☆

長文3題と自由英作文1題という問題構成は例年通り。21年度と同様に、大問1は日本語で解答する記述問題中心、大問2は英語で解答する記述問題中心と、大問によって明確な形式の棲み分けがなされている。大問3は例年通り正誤判定の選択問題、大問4も例年通り標準レベルの自由英作文だ。21年度より長文の合計単語数は若干増え、選択問題は1問のみで、残りは全て記述問題か本文の抜き

出し問題だった。さらに、長文読解の難度は21年度よりも上がったと思われる。読解量と設問の多さは、試験時間120分とは言え、かなりタイトだろう。対策としては、まず1,000語程度の長文問題を、時間設定をした上で最後までこなせるように訓練すること。さらに過去問演習を通じて時間配分を検討し、大問の最適な解答順序を自分でつかみ取ることが求められる。

応用力が必要となる医学部入試

2022年度
日本医科大学
数学

大問		分野	内容	出題形式	難易度
1		複素数平面 Ⅲ	軌跡、領域、2点間距離の最大・最小	空所補充	★★☆☆
2		確率、数列 A、B	条件付き確率、格子点	記述	★★☆☆
3		平面上の曲線 Ⅲ	楕円の接点、2直線のなす角の最大	記述	★★☆☆
4		微分法の応用、 積分法の応用 Ⅲ	グラフ、回転体の体積	記述・空所補充	★★☆☆

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★☆☆ やや難

前年との難易度比較 ↑ やや難化

時間に対する分量 多い

例年、数学Ⅲからの出題が多く計算量も多い。大問1と大問4の問1の一部が空所補充となり、大問2の問1、大問3の問1・2・3、大問4の問1の一部が答えのみで、他が論述形式である。問題間の難度差が大きいので標準的な問題を確実に得点することが重要となる。思考力を要するものや見慣れない題材も出題されているので暗記に頼った学習では太刀打ちできない。すべての範囲の頻出問題を習得した上で複数の問題を融合させた総合的な問題を解く練習を積む必要がある。また、文字を含んだ複雑な計算をこなす計算力も不可欠だ。

応用力とは？

基礎力（語彙、用語、計算、文法、構文、定理、公式、典型問題の解法など）を組み合わせて、初見（に見える）問題を分析して解答する力

⇒基礎力の習得が前提となる

※幅広い基礎知識を習得し、深く理解し、完全に定着できているほど、応用力の養成は容易

応用力を身につける時期

受験学年 前半

基礎力養成

4月

5月

6月

7月

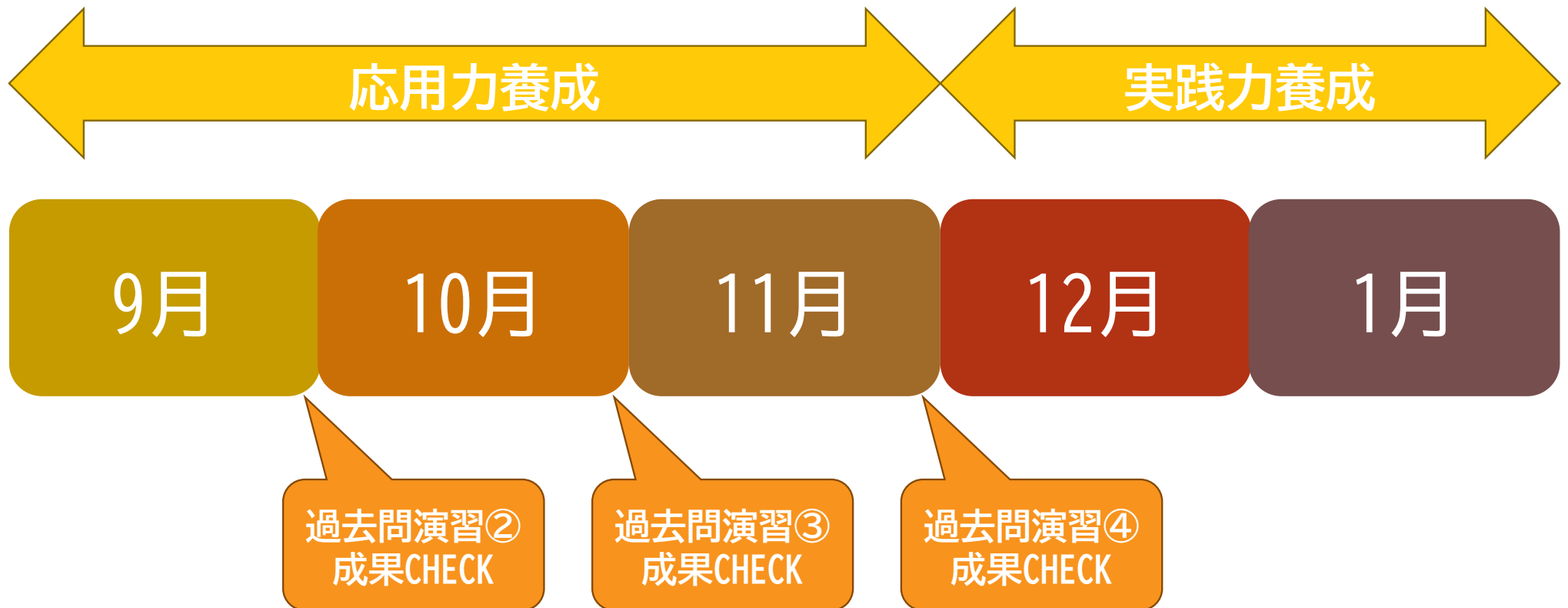
8月

過去問の確認
出題傾向と対策法

過去問演習①
↓
課題の抽出
学習計画への反映

応用力を身につける時期

受験学年 後半



応用力をつけるための学習法

思考力 = 試行力

⇒ 仮説を立てて検証する練習

A. 積み上げ型：問題文に与えられた条件から組み立てていく

B. 逆算型：答えとして求められていることから逆算して組み立てていく

C. 俯瞰型：出題者の意図を意識して組み立てていく

応用力をつけるための学習法

問題文を正しく理解する読解力・注意力

- ・読み飛ばさない
- ・条件を整理
- ・事象が起こる前と後、変化に注目
- ・分岐点に着目
- ・求められているものが何かを確認
- ・解答の条件を確認

応用力をつけるための学習法

具体化 ⇔ 抽象化
分解 ⇔ 統合

- 具体的な設問 ⇒ 抽象化、一般化してみる
- 抽象的な設問 ⇒ 具体例を考えて検証
- 融合問題など ⇒ 事象を分解してみる
- 場合分けされた問題など ⇒ 統合して共通点、差異を検証

応用力をつけるための学習法

視覚化（表・グラフ・図示）

- ・ 情報が多い問題など ⇒ ポイントを表にまとめてみる
- ・ 時間変異に伴う変化など ⇒ グラフにしてみる
- ・ 視覚化できる問題 ⇒ 分かりやすいように図示してみる

⇒問題によっては、視覚化するだけで正答が見えてくるものも

応用力をつけるための学習法

別解・周辺知識

- ・ 数学など別解も積極的に考えてみる
- ・ 解答解説に別解があれば積極的に習得する
- ・ 例外や関連事項などの周辺知識も積極的に習得する

⇒ 基本知識、典型解法の習得が優先だが、周辺知識や別解法など、「武器」が増えることが応用力につながってくる

応用力を身につけるための問題集

受験校の問題形式や問題難易度に合わせた問題集選定

◇英語で下線部誤り指摘問題が必ず出題される
⇒下線部誤り指摘問題に特化した問題集

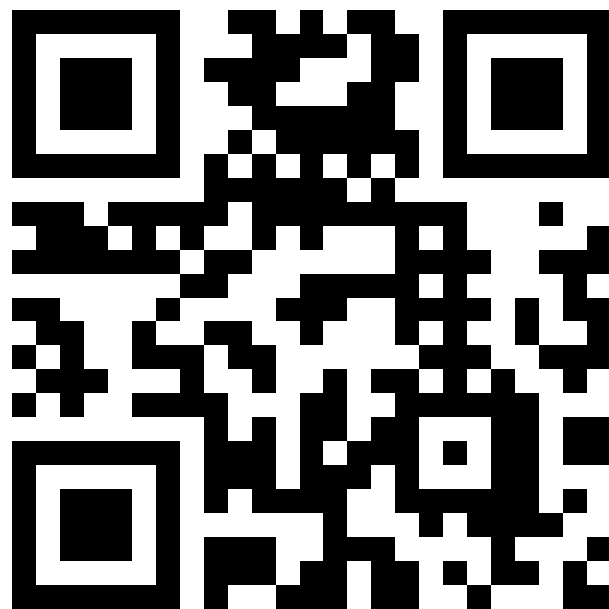
◇数学で必ず整数問題が出題され、難易度も高い
⇒整数問題に特化した問題集

◇物理で標準・典型問題を中心に
⇒標準レベルの問題集でミスなく解き切る練習

など

ご視聴ありがとうございました。

ご質問やご相談は最寄りの校舎まで、お気軽にお問い合わせください。



QRコードをスマートフォンなどで読み取ると、メディカルラボのホームページにつながります。